社会福祉法人・学校法人　イエス団

Jesus band

イエス団報

Jesus band news

2016/12/24

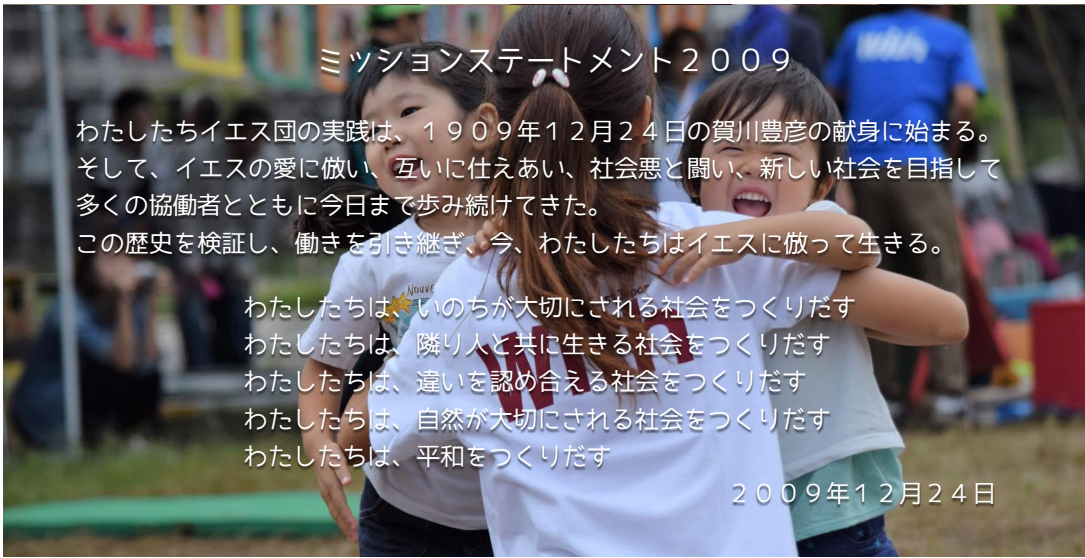
19

再刊 19 号

■ 2016 年イエス団の新たな取り組み
■ イエス団の輪っ
　呉光現（ｵ･ｸｧﾝﾋｮﾝ）さん
　瀧尻 充代さん　　栗浦 康恵さん
　森田 陽也さん　　飯原 有紀子さん
■ 研修報告
■ 施設紹介
　神視保育園
　天隣乳児保育園
■ 人物探訪
　黒田　絢さん（元光の子保育園園長）
■ トピックス
　リーダーシップ養成研修ステップⅡ修了
　なつやすみ平和映画上映会
■ J.B.フェローズ活動報告
■ 表紙写真の解説
■ 編集後記

発　行：2016 年 12 月 24 日
発行者：黒田　道郎
編集・発行：

社会福祉法人・学校法人 イエス団
〒651-0076
兵庫県神戸市中央区吾妻通 5-2-20
TEL：078-221-9565
FAX：078-221-9566
http://www.jesusband.jp
mail to：honbu@jesusband.jp



ミッションステートメント２００９

わたしたちイエス団の実践は、１９０９年１２月２４日の賀川豊彦の献身に始まる。
そして、イエスの愛に倣い、互いに仕えあい、社会悪と闘い、新しい社会を目指して
多くの協働者とともに今日まで歩み続けてきた。
この歴史を検証し、働きを引き継ぎ、今、わたしたちはイエスに倣って生きる。

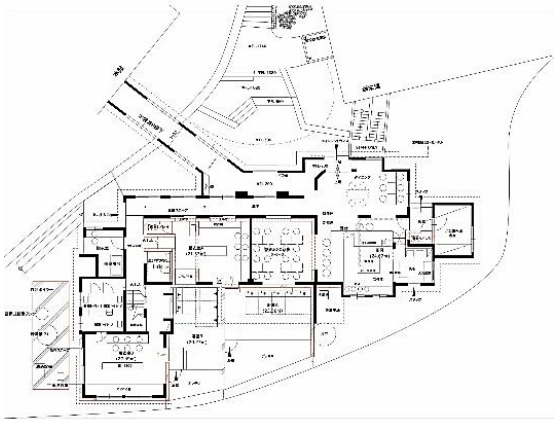
わたしたちは、いのちが大切にされる社会をつくりだす
わたしたちは、隣り人と共に生きる社会をつくりだす
わたしたちは、違いを認め合える社会をつくりだす
わたしたちは、自然が大切にされる社会をつくりだす
わたしたちは、平和をつくりだす

２００９年１２月２４日

豊島神愛館全景

2016年イエス団の新たな取り組み

1. 豊島神愛館リニューアルプロジェクト



子羊館の計画平面図(食堂・入浴施設)

乳児院豊島神愛館の移転後、施設をどのように活用していくことが豊島の福祉や地域を考える上でよいのか、移転準備と並行して取り組んできた「豊島の福祉を考える協議会」においても課題になっていました。2015 年 4 月以降は、小委員会を開き、地域の皆さん、建築家、地方創生事業者など多くの方からアドバイスをいただき、建物のリニューアルについて検討してきました。福祉の島として、地域の方々が施設を支えてくださった思いを大切にし、生きづらさや障がいをもつ人々のニーズに応え、以下の 3 点を目指す計画を立てました。

1. リフレッシュ出来る滞在型の施設にしていくこと
2. 地域の人たちが集まれる場として交流や学びの場を提供すること
3. イエス団をはじめとする様々な団体の地域学習や福祉研修の場を提供すること

そのため、宿泊施設、食堂施設、入浴施設などを整備し、施設を活用していきたいと考えています。豊島ナオミ荘、瞳保育所とともに、豊島の福祉に役立つ働きに用いられるため、更に多くの方々に力を集結していただけるよう願っています。

2. 中期計画の振り返り、次期中期計画に向けて

本年度は 2014 年度から 3 年間の期間で策定された中期計画の最終年度にあたります。

3 ヵ年を振り返ると、法人の働きを伝える「イエス団パンフレット」が作成されたり、MS2009 の解説文が時代の変化に合わせて改定されたり、イエス団の使命である MS2009 の共有と実践を進めることができました。また、各施設の課題はブロック会議で共有し連携を図ってきましたし、リーダーシップ養成研修ステップⅠ・Ⅱを通した人材育成も着実に実を結んでいます。

しかしながら、長期的な財務管理や法人のスケールメリットを活かした資金管理については課題が残っており、次年度からの中期計画にも盛り込む必要があります。

他にも法人改革への対応や各施設の新規事業を法人全体で支援する体制の構築など、イエス団の働きがより活性化される計画を次年度に向けて協議中です。

各施設においても次期中期計画が立案される時期ですが、職員ひとり一人の意見が計画に反映され、働きの指針になってほしいと思います。

中期計画を心に留め、共にイエス団の理念を実践していきましょう。

3. イエス団熊本地震救援対策本部より

この度、4 月 14 日、16 日に「熊本地震」発生後、私たちイエス団では「イエス団熊本地震救援対策本部」を立ち上げ、4 月 28 日には現地に義援金や支援物資を持って行き、今後の支援活動について話をしてきました。その後、支援依頼のあった熊本県西原村たんぽぽハウス（障がい者支援施設）を拠点に、様々な支援活動に携わってきました。今後も現地からの要請にできる限り応えていく予定にしています。また、東日本大震災の支援も継続して行っています。今後とも、ご支援ご協力をよろしくお願いいたします。

イエス団の輪っ

「イエス団の輪っ」と題してリレー形式での投稿です。理事・評議員から一人、一般職員は、各ブロックより一人ずつ寄稿して頂きます。

7回目は、理事の宇野豊さんから理事の呉光現さん、大阪ブロック：松居太開さん(ガーデン　ロイ)から瀧尻充代さん(馬見労祷保育園)、兵庫ブロック:杉本知佐さん(幼保連携型認定子ども園のぞみ保育園)から栗浦康恵さん(みどり野保育園)、京都ブロック：松村香菜子さん(くずは光の子保育園)から森田陽也さん(宇山光の子保育園)、四国ブロック：竹垣美紀さん（かがわ子ども・子育て支援センター育愛館）から飯原有紀子さん(瞳保育所)です。

社会福祉法人イエス団理事
特定非営利活動法人聖公会生野センター総主事
呉光現（オ・クァンヒョン）さん

「イエスに出会いたい」

イエス団に関わって 10 年以上が経ちました。私が働く大阪の生野にはイエス団の聖浄保育園もあり、そこには日本キリスト教団大阪生野教会もあります。20 代の時から生野教会とは付き合いがあり身近に感じますね。

1982 年に生野区の超教派の団体である生野地域活動協議会の専従職員になり 1992 年から現職です。「生野生まれの生野育ちの在日 2 世です」。生野のゆえ、年間通していろんな学びのお手伝いをします。最近はキリスト教関係の訪問者が増えてきていますね。

聖公会生野センターができた頃、ＮＨＫの取材を受けました。それが放映された時、びっくりする映像に出会いました。1957 年の生野の猪飼野（注：古くは日本書紀に出てくる地名で朝鮮人の密集地域の代名詞的）の映像ですが共同トイレ・水道の本当にスラムでした。実は私はこの歳に猪飼野で生まれましたが「絶対的な貧困」を感じたことはありませんでした。みんなそれなりに貧しかったからですね。

その映像を見て思い出したことがあります。高校に進学すると生野から電車に乗って通学することになりました。そこでの出会いはこれまで経験のないことでした。同級生の家が大手商社の役員、大阪市役所のキャリア公務員、病院経営者、マンション経営・・・と、生野ではほとんど出会うことのない人たちでした。もう一つは小中学校では隠してなかった「朝鮮人」と言うことを言わなくなったことです。高校 3 年間それを告白したのはほんの数人です。特に差別をされたわけではありません。しかし、私と「違う世界の住人」との出会いと付き合いは、民族と言うことを萎縮させることにつながったのでした。

大学入学後、在日韓国人の学生運動を経験して、「朝鮮人」として生きていこうと決心して今に至っています。その過程で教会と出会いました。洗礼を受ける前に韓国の教会の地域運動、労働運動の現場研修に 1 か月派遣されました。その時の経験が洗礼につながりました。

当時 1980 年代の韓国の労働者の置かれた状況は「非人間」的と言ってもいいくらい酷いものでした。

3 月 1 日（この日は三一節といって 1919 年に日本からの植民地支配に抗して闘われた独立運動記念日）の夕方、その記念の礼拝が宿泊していた教会でありました。20 代の女性がお祈りをしました。聞き取るには不十分な韓国語の実力でしたが、泣きながらの彼女の祈りは私を震えさせました。

こんな祈りです。「神様、私は田舎に幼い兄弟姉妹をおいてソウルで働いています。毎日毎日 12 時間以上働いても生活は楽になりません。故郷に仕送りをすると、やっと食べるだけです。時々会社の物やお金を盗みたくなります。こんな私は罪人です。信仰が足りないのでしょうか？」。

説教者は「今の韓国社会で彼女を裁ける人はいません。」と語りながら、「解放者イエスは、社会で疎外されている人の側にいらっしゃる。私たちの信仰はそのイエス様に従うことです」と彼女への慰めだけでなく彼女の祈りを礼拝全体で共有したのです。

イエス団の評議員に誘われたとき正直戸惑いました。賀川豊彦さんが作ったということくらいしかイエス団のことを知らない。学生時代からの友人である平田義さんがイエス団で頑張っている。その程度でした。

評議員から現在は理事として奉仕しています。たぶん私に求められているのは既成の常識・制度の「事業」を進めて行くことだけでなく、マイノリティ市民として、イエス団がより発展していくことを発信することではないかと思っています。

日々、子どもたちやお年寄り、そして多様な背景を持った人たちと共に働くイエス団が、多様化している日本社会と向き合い、そして急速に右傾化し戦争できる国へ向かおうとしている日本社会に「ＮＯ！」と言いつつ「イエスに従う者」になっていくことを願っています。

次は、学校法人理事の田村三佳子さんに、バトンを渡したいと思います。

Jesus band

大阪ブロック
馬見労祷保育園　瀧尻充代さん

「今の働きに改めて思うこと」

今回、大阪ブロック「ガーデンロイ」さんからバトンを受け取りました。馬見労祷保育園の瀧尻充代です。

私がこの園に勤務することになったのは、12 年前、以前お世話になった先輩保育士から「今、保育士が足りなくて、来てくれない？」とのオファーを受けたことが始まりです。短大を卒業して、2 箇所の保育園に計 10 年勤務。一度リセットして介護の道へ進もうかと、ヘルパーの資格を取り終える頃でした。人のために、何か役に立てることならと、とりあえず採用面接へ・・・『この園はキリスト教保育をしています。』と伺いながらも、深く迷うことなく就職を決めました。

「キリスト教保育」ってどんなこと？

それまでキリスト教に触れたことがない私にとって、未知の世界。就職を決めたものの、やっていけるのか？と不安もありました。

勤め始めると、日々保育の中で、祈りの時があることを知りました。讃美歌を歌い、神様にお話をして祈る。先輩の姿を真似ながら、自分も保育の中に取り入れていきました。でも、それだけではない、もっと深いものなんだと、考えるようにもなりました。

「イエスに倣って生きる」ことを宣言しているイエス団の一施設で働く一員として、賀川豊彦精神を知り、イエス団憲章・ミッションステートメント 2009 についてなど、もっといろんなことを理解しなくてはならないと・・・。

イエス団の研修会や園内研修で、「イエス団理解」や、「キリスト教保育について」などの話を聞く機会に参加することで、少しずつ理解できるようになってきたように思います。

研修会に参加すると、グループ討議や振り返りの時間を通して、みんな同じ思い・考え・悩みを持っていることに気づき、共感することができます。悩んでいるのは私だけではない、イエス団に連なる私たち一人一人はみんな仲間なんだと嬉しくなります。まだまだ理解不足で勉強しないといけないことはたくさんありますが・・・。

現場で働く私のまわりには、たくさんのいろんな職員がいます。それぞれに個性があります。(子どもへの保育と同じように) 良いところも悪いところもまるごと受け止める！ことは、完璧ではありませんが、ミッションステートメントにあるように、一人一人の違いを認め合い、隣人と共に生きていくことを職員同士の関わりのなかでも活かしていきたいと思います。

そして、私自身この職場でどんなことができるのか。どんな役割を果たすべきなのか。私にできること、私にしかできないことはどんなことなのか。日々考えながら、私の持っているものを活かせる保育園（職場）作りを、私のまわりにいる仲間達と共に、イエス団の一員としてこれからも進んでいきたいと思っています。

次号の「イエス団の輪っ」は、愛之園保育園にお願いしたいと思います。

兵庫ブロック
みどり野保育園　栗浦康恵さん

「イエス団につながって」

私は、今は無き、社会福祉法人イエス団　神戸保育専門学院に昭和 52 年に入学しその 2 年後卒業とともに保育士資格を取得することができました。私がイエス団とつながった始まりという事になるのでしょうか。

けれどイエス団について特に意識した事もなく、賀川豊彦という方が弱い立場の人々のために大きな働きをされたことや、生協を創られたことを知り、大変驚いたことを思い出します。

イエス団につながっているという自覚の薄い私でしたが、学院生活は充実し楽しい 2 年間でした。学院は神戸市北区の山奥にあり(今でこそ拓けているようですが)、北鈴蘭台の駅と学院を往復する送迎バスで通学していました。入学した頃のバスは、なんとボンネットバスでした。これに乗り遅れると山道を歩いて遅刻するか、タクシーで行くしかなかったので、毎日必死だったと思います。

学生は保育士を目指して全国各地から来ていて、通学生と寮生と合わせて一学年 50 人。個性豊かな人たちと共に、保育の様々な勉強をしつつ、サークル活動で仲間と共に各公園を回って紙芝居をしたり、子ども達と遊んだり、保育所の誕生会に参加させてもらい劇を見てもらったりしました。又賀川記念館のバザーのお手伝いにも参加させてもらい、たこ焼きを焼いたことも思い出します。

内弁慶で赤面症、引っ込み思案、特に取り柄のない私でしたが、色々な経験をする中で、仲間からたくさんの刺激を受け影響されることで、少しずつ変わっていったと思います。

特に保育実習では、香川県坂出市にある坂出育愛館や、徳島県の徳島県立徳島乳児院でお世話になりました。宿泊をしながらの実習で、実習記録を夜遅くまでかかって書いたり、夜遅くに洗濯機をまわして叱られたり、いろいろ大変でしたが子どもたちとの関わりは楽しい思い出です。坂出育愛館での実習最後の日に、先生方皆さんで歌っていただいた賛美歌「またあう日まで」が今も心に残っています。

家を出て宿泊しての実習で振り返ってみると、色々な意味で経験不足だった私を、少しでも鍛えるための計らいだったのではないかと、当時の学長、森岡涼先生に感謝しています。

そうした学生生活を経て、種谷俊一牧師が尽力されて設立されたみどり野保育園で保育士としてお仕事が出来るようになり、早 40 年近くなります。途中、結婚出産で 5 年ほど離れたこともありましたが、縁があってまたみどり野保育園に戻ることができ今に至っています。

私自身、人と積極的に関わったりつながり合うことは苦手なのですが、よく考えてみると今まで出会ってきた様々な方々、先生や友達、保育園の子どもたち、その保護者の方々、職員の人達、そして家族、たくさんの出会いがあり、つながってきていることが、今の私の支えになっているのではないかと感じています。

また、こうしたつながりに導いて下さっているのは、神さまなのかもしれないと思います。私はクリスチャンではありませんが、保育士として、また人として、子ども達の成長とその未来が平和であることを願って、日々感謝の気持ちを忘れずに過ごしていきたいと思います。

長々と私の思い出と下手な文章に付き合っていただきありがとうございました。

次は、杉の子保育園の方、宜しくお願い致します。

京都ブロック
宇山光の子保育園　森田陽也さん

「ありがとうを伝えたい」

この度、くずは光の子保育園から「イエス団の輪」のバトンを受け取りました。宇山光の子保育園の森田陽也です。今年で５年目を迎えました。

私は大学卒業後、ある保育所に就職しました。しかし、実際に働いてみると理想と現実とのギャップの大きさに戸惑いの気持ちが芽生え、退職してしまいました。

その後、保育とは離れ、父親の会社の手伝いをしながら「本当に自分のしたい事は何なのか？」という事を考えるようになりました。考える中で「やっぱり子どもたちとのかかわりを大切にできる仕事をしたい」と再び思うようになったのですが、そう簡単には職場を見つけることができず、苦労する事もありました。そのような状況の中見つけたのが、宇山光の子保育園の求人でした。それが、私と宇山光の子保育園（イエス団）との出会いでした。

最初はキリスト教の保育園という事もあり、正直、戸惑う気持ちもありましたが、縁あって現在まで働かせていただいています。

園で働き、キリスト教にふれる中で感じることがあります。それは「神様の導き」です。今の私があるのも、苦しんでいた時期に宇山光の子保育園（イエス団）に巡り合えたことも、今考えると神様が導いて下さったのだと感じます。

このような経緯で今のイエス団の一員である私がいます。今回バトンを受け取った事で自分を振り返る良いきっかけになりました。

今の私がここにいる事、その事に大きく感謝したいと思います。

そして、その感謝の気持ち＜ありがとう＞の気持ちが大切であるという事を子どもたちにも伝えていきたいと思っています。

「ありがとう」には３つの効果があると聞いたことがあります。『1 つめは、言った本人に感謝の気持ちを呼び覚まさせてくれる』『2 つめは、感謝の気持ちを述べられた側は誇りや自信につながる』『3 つめは、何よりも爽やかな気持ちになれる』という効果があるそうです。

＜ありがとう＞と言葉にする事、感謝する事は簡単なようで難しいものでもあると思います。その大切な言葉、感謝する気持ちを相手に伝えていく事の大切さを、日々の保育の中で伝えていきたいと思っています。そして、私自身もあらゆることに感謝しながら＜ありがとう＞の気持ちをもち、しっかりと言葉にして伝えていきたいと思います。

次の「イエス団の輪っ」は、ゆうりんの杉本基晴さんにお願いしたいと思います。

四国ブロック
瞳保育所　飯原有紀子さん

「満たされている人々」

日々、様々に色を変える美しい海と山に囲まれた小さな島に瞳保育所はあります。保育所の子どもたちは全員で６名。島のみんなの宝物です。

最近では芸術祭が開催され、賑やかになりました。島に訪れる人は増えましたが、島民の暮らしは大きく変わることなく、今もゆったりとした時間が流れています。

そんなのんびりとした島の保育所にも大変な時がありました。突然保育士の数が足りなくなったのです。僻地の離島。すぐに保育士は見つかりません。ものすごく困っているところに救いの手を差し伸べてくれたのは近くの保育所…ではなく、遠く離れた地のイエス団の仲間でした。それぞれの園も大変なはずなのに助けに来てくださったのです。その時、たくさんの職員の方に出会い、それまで他の施設と交流がなかったことを改めて思い、そして感謝しました。それから２年ほど経ちました。

毎日が穏やかに過ぎていく中、時々散歩に出かけます。子どもたちはいつも歌を口ずさみます。

その可愛らしい歌声を聞いて、地域の方々が手仕事を止め、「どこいっきょんな？」「何の歌な？」と家や仕事場から道端に出て、直接子どもたちと顔を合わせながら声をかけてくれます。小中学校の生徒たちも「保育所から歌声が聞こえたよー」と気軽に声を掛けてくれます。とても心が温まる散歩です。

瞳保育所の理念は『自分を愛するように　あなたの隣人を愛しなさい』です。善いサマリア人の話を読むとき、隣人について考えます。

半生の人を助けたサマリア人は心が満たされていたのだろうな、などと想像しながら読んでいます。

島で暮らしていて感じることもまた『みんな満たされている』です。自分の孫じゃないけど、と子の世話をしたり、自分の祖父母でないけれど身近に感じたりしながら、それを当たり前とし、豊島の人たちは暮らしているのです。「あの子は爺さんにそっくりや」「〇君は今度水泳の記録会に出るんやぞ」とまるで我が子のように話し、大きくなったなと成長を見守ってくれます。

地域の方が言う「豊島の子どもはみんなの宝」をしっかり感じます。みんなで子育て。子どもたにとっては、おじいちゃんおばあちゃん、おじさんおばさんがたくさんいる大家族のような状況です！子どもたちや困っている観光客の世話をやくことが大好きな「満たされた人たち」とともに、幸せを感じながら島で暮らしています。

さて、次号は光の子保育園さん、よろしくお願いします。

esus band

研修会報告

新任職員研修会～参加者と共に

新任職員研修会

2016 年 3 月 24 日（木）～25 日（金）
於：六甲山ＹＭＣＡ

今年度の新任職員研修会も自然に囲まれた六甲山 YMCA で行われました。新任職員 54 名、理事 3 名、スタッフ 6 名、フェローズ 11 名、総勢 74 名が共に祈り、共に学びあいました。講師の先生は、シチズンシップ共育企画代表の川中大輔さんです。

目的は、「イエス団の理念を理解し、職員としての使命を考える。」「感じる、考える、気づく、伝える、聴く、分かち合う事の大切さを学ぶ。」「新しい職場に入っていく準備をする」の 3 点です。

開会礼拝は、イエス団理事でもある神戸イエス団教会の上内鏡子牧師からの「私たちの力を超えて」というメッセージでした。聖書の箇所は、コリントの信徒への手紙一 3 章 6 節です。これから仕事を始めていくと、思うようにいかないことや、なかなか解決できずに行き詰まること、割り切れないこともたくさん起こります。しかし「わたしは植え、アポロは水を注いだ。しかし成長させてくださったのは神です。」とあるように、ただただ一生懸命努力することに意味があり、後のことは神様に委ねたら良いと語られました。また、「野菜と祈り」の著者である星野牧師の雑草抜きの話を紹介され、使命感を持って働くことの大切さの話もされました。礼拝最後に、いんげんの種を上内先生から配られました。小さくシンプルですが、すべてが詰まっている大切な種でした。

開会礼拝

川中さんのセッションでは、参加者は「とにかくやってみる」「思ったことを伝えてみるチャレンジ」「キャッチボールのようなコミュニケーション」を心がけます。いろんな人と接することで自己覚知をしていきます。はじめは不安に包まれていた新任職員の表情も、セッションを進めるうちに変化していきます、声がしだいに大きくなり、うきうきした笑い声がおこり、ちょっとした場面で声がそろう、というように。コンセンサス実習を行うことでの「グループの中でのわたしの気づき」、フェローを囲んでの「仲間との語らい」、「社会の中のわたしへの気づき」へとセッションはつながっていきます。どのセッションでも、締めくくりに個人のふり返り作業と、仲間との分かち合いが行われていました。

グループワーク

それぞれのミッションステートメントを作成する前は、いよいよイエス団の理念に関するセッションです。「ミッションステートメント 2009 の実践～イエスに倣って生きる～」のテーマで、平田常務理事、田村園長、川中さんとの鼎談が行われました。

イエスに倣うとはどういうことなのかを聖書を示しながら語り、現場での実践をスライドをまじえながら語る深くて熱いセッションでした。そのうえで新任職員自身が現場で働いている自分の姿をイメージして、「わたしのミッションステートメント」を作成、緊張のなか自分で読み上げました。

閉会礼拝の説教は、黒田理事長からの「イエス団の土台」でした。

聖書はヨハネによる福音書 13 章 12 節～15 節です。イエスが弟子たちを愛しぬかれたように、とことん人を大切にすることを私たちに示されました。最後に黒田理事長より辞令交付を受け、無事に会は終了しました。

報告：企画委員会　研修担当チーム
杉の子保育園 園長　今村優二

今回参加のフェローズ

ブラッシュアップ研修会

2016 年 6 月 10 日(金)～11 日(土)
於：六甲山ＹＭＣＡ

毎回の研修では、「歌のお姉さん(？)」として参加させていただいているわたしですが、久しぶりにプログラムディレクターをさせていただきましたので、ブラッシュアップ研修の様子を少し紹介したいと思います。

研修の目的：(1)今の自分を見つめ、これからの課題を探る
(2)現場での体験を出し合い、仲間と共有する
(3)「イエス団で働くこと」の意味を理解し、深める

この研修の中で特にお伝えしたいことが 2 つあります。

先ずは、イエス団では初めての試みである金魚鉢方式でのフリップディスカッションと屋台方式での語り合いです。講師の川中大輔さんをコーディネーターとし、スタッフの平田常務理事、小野本部事務局長、峰施設長、阿部本部事務局スタッフ、そして田村の 5 人が、テーマ「キリスト教はわたしの仕事にどう影響しているか」具体的なエピソードを 1 つ、それぞれ述べました。

それを受けて参加者の皆さまがもっと詳しく聴いてみたい人を選んで 3 回に分けてまわるのです。

①キリスト教とわたしの出会いからの展開
②キリスト教とわたしの(生き方との)結びつきの深まり
③イエスに倣って生きる。イエスのどのような働きを見倣っていくべきと考え、今ある場所でどのように実践しているかというテーマのもと、それぞれの「この人に聴きたい」に応えます。

セッション「この人に聞いてみよう」の様子

話し手としては、この屋台を選んでもらえるのかと少しドキドキでしたが、気持ちよく語らせていただき、また自分らしく、そして参加者の皆さまと本音で向き合うことができました。キリスト教の施設にいて悩むことは大いにあると思いますが、セッション「この人に聴いてみよう」は参加された皆さまのその思いに、どのようによりそえたのでしょうか。

「私の施設のハッピーニュース」を発表する参加者

もう一つは、聖歌隊(3 人の)ができたことです。讃美歌「きみは愛されるため生まれた」をピアノ伴奏とボーカル担当してくださった参加者のお二人と、わたしのハモリです。研修の合間に練習をし、皆さまの前で披露させていただきました。このような短い練習で、人前に立つという勇気。それを超えて神さまに与えられたそれぞれの賜物を活かすことができました。フォローアップセッションでは、更にバージョンアップして皆さまと共に讃美できることを願っています。

この研修を通して、自分はどうしてここにいて、これから何に向かって歩んでいくのかを確認し合うことができました。わたしが選んだと思っていたけれど、そうではなく神さまがここに送ってくださったこと。わたしにもできることがある。そのままの自分でやればいい。わたしには待ってくださっている利用者さんがいること。そして仲間がいる。これからはその仲間と共にイエス団の職員として、どの人も幸せに感じることができる社会をつくりだす。

今ふり返っても、六甲山のあの地で共に過ごした 2 日間は充実していました。皆さまのこと、これからも応援しています。「大好きだよ～」。

参加者とともに

報告：企画委員会　研修担当チーム
甲子園二葉幼稚園 園長 田村三佳子

【ブラッシュアップ研修会参加者の声】

この研修を通して、改めて自分と向き合うことが出来たように思います。自分は、何故この職を選び、何を大切にしながら働いているのか…。原点に戻りつつふり返りをしていくことで気づくこともありました。

初めて出会った方達と皆で思いを共有できたことは、今後の力になると思いました。この場で、仲間として本音でわかちあえたこと、その中でお互いに得られたものを活かしていけたらと思います。

甲子園二葉幼稚園　高橋愛実

第２回全体主任研修会

2016 年 7 月 9 日(土)
於：賀川記念館礼拝堂

第 2 回全体主任会を 2016 年 7 月 9 日（土）賀川記念館礼拝堂で開きました。今回は、大阪聖和保育園前園長　森本宮仁子先生をお招きし、「地域と共に歩む」というテーマで講演して頂きました。

「民族保育」とは・・・文化や言葉を教えたいわけではない。「あなたがあなたでいい」ということ。相手の人が持っている痛みを自分のことのように感じられるかどうか。共感や寄り添うことは痛みが分からずしてできるはずがない。自らの偏見にどれだけ気付くことができるかが課題である。

また、私たち兵庫ブロックが悩んでいた主任の働きについてもお話しして頂きました。

職場の中で一番弱い人は誰か。その仲間にメッセージを伝えているか。ミッションステートメント 2009（以下 MS）の言葉。

自分自身のことを愛おしいと思っているか。

自尊感情があるからこそ他者を愛せる。

また、違うことを聴く姿勢をもっているか。

平和について「これってどう思う。」と話せる状況にあるか。

あなたは、傍観者になっていないか。

上記のような投げかけを受け、「MS を職員同士の中で実現できているか」というテーマを持ってグループ討議をしました。

以下はグループ討議で出された意見の一部です。

- 利用者には MS を念頭において業務しているところはあるが、職員間となると日々の業務を理由にしてできていない。衝撃を受けた。目に見えない心がしんどい職員に対しては、傍観者になっている自分がいる。
- 若い職員に対して、ジェネレーションギャップという言葉だけで片付けて歩み寄ろうとしていない。新任でなくても、年数を重ねている職員も悩んでいることがあるのではないか。そのような人に目を向けることが主任の役割ではないか。
- しんどい人に寄り添おうとして気を遣いながら話をしたとしても、相手にとってはしんどかったり辛かったりすることもある。一つひとつのことを認めていく、できたことを細かく伝えていくことが大切だと再確認した。

そして最後に、グループ討議の発表を受け、森本先生より質疑応答の時間がありました。リーダー的存在としての在り方・職場の中でどのような働きをしていくかを学ぶ事ができました。

わたしは今回の研修を受け、“聴く”ことの大切さを再認識すると共に、MS の取り組み方について考えさせられました。利用者・職員間で取り入れることで、よりよい職場作りの実現に繋がっていけばよいなと思います。

昨年に続き、今回また同じ主任の立場の者が集って講演・討議ができた事に感謝しています。同じ役割を担う者としての意見交換ができ、困った時に相談し合える横のつながりを感じることを大切にしたいと思います。

報告：幼保連携型認定こども園のぞみ保育園　宇治加奈子

リーダーシップ養成研修会ステップⅠ

2016 年 9 月 1 日（木）～9 月 3 日（土）
座学：在日韓国基督教会館(KCC)
フィールドワーク：生野の街
社会福祉法人愛信福祉会　愛信保育園
社会福祉法人聖和協働福祉会　大阪聖和保育園
NPO 法人サンポラム 在日コリアン高齢者支援センター 大池橋サンポラム
NPO 法人うり・ソダン　デイサービスさらんぱん
NPO 法人出発(たびだち)のなかまの会

今年度も昨年度に引き続き、大阪市生野地域での 2 泊 3 日の研修がおこなわれました。イエス団理事でもある呉光現さんのコーディネートの元、様々な現場の方々からお話しを伺うことができました。常にお腹も一杯、刺激的で自分自身に突き刺さる思いを受けながら、それぞれ 1 人 1 人の参加者も「自分には一体何ができるのだろうか？」と思い悩んだかもしれません。今回は、その参加者の中から報告させていただきたいと思います。

報告：企画委員会　研修担当チーム
京都市南部障がい者地域生活支援センター「あいりん」太田正人

兵庫・東兵庫・大阪・京都・四国の 5 つの地区から 13 名が参加しました。イエス団理事でもある呉光現(オ･クァンヒョン)さんに在日朝鮮・韓国人の歴史、地域の新たな課題等について伺いながら大阪市生野地域を案内していただきました。

聖公会生野センター総主事呉光現さんと在日一世の高春子さん

そして、太平洋戦争中に大阪で生まれた在日一世の高春子（コ・チュンジャ）さんからご自身の半生、済州島四・三事件で体験されたこと、日本に来てからのご苦労、今後どのような世の中になってほしいのか等をお話しいただきました。「大阪府立桃谷高校や大阪府高齢者大学での学びを活かし、自分の経験を文章で伝えたい」という言葉が印象的でした。

事前に示された映画や図書で予習し研修に臨んではいました。しかし、実際に空襲の被害を免れた古い街並みを歩き、空気を吸い、当事者の方からお話しを伺うというような五感を使った学びは、差別をなくし、多様性を認め合う共生社会の実現に向けて、何かしたいと思う気持ちと同時に、複雑に絡み合った課題に対して自分に一体何ができるのかと不安な気持ちをもたらしました。

2 日目は、それぞれの施設で実習をさせていただきました。

わたしは、重度の知的障がいのある方に関わってこられた NPO 法人出発(たびだち)のなかまの会（1979 年設立）で学ばせていただきました。

代表の勝井　操さんは「NPO 法人として活動を続けている理由は、利用者・職員が同じ会員として、一緒に運動し、一緒に市民活動として地域づくりをするため」と、当事者のニーズに合わせて行政に当事者団体と働きかけて制度を作り上げていく、時代に合わせて事業を見直し、必要に応じて辞める潔さなど、これまでの取り組みについて教えていただきました。

現在は、時代の変化もあり、障がい者福祉だけでなく地域にある他の分野の機関と、お互いが必要とされる関係で協働できるシステム作

りに取り組まれております。実際に元ホームレスの方が営む、空き家を活用したカフェで昼食を頂き、グループホームで生活されている女性から、地域の保育園でお仕事をしている様子やご自身の当事者団体での活動の写真等を見せていただきました。

グループでのふり返り、共有

3 日目は「MS2009 からこれからの実践を考える」ということで、川中大輔さんより、当事者とその周囲にいる人が困っていることに焦点を当て、ニーズを探って行く調査方法について教えていただきました。

行政統計等を用いて調べる。当事者や関係者のお話を伺う。書籍で調べる等、具体的な手法を教えていただいたことで 1 日目に漠然と感じた不安を減らすことができました。

各自で学び、2 月のフォローアップセッションで共有するのが楽しみです。この 3 日間の研修では、多くの方から支えていただき、学びや気づきを得ることができました。ありがとうございました。

報告：京都市南部障がい者地域生活支援センター「あいりん」福野由記

『この一年の研修会をふり返って』

「この 3 年間でわたしが変わったことは」をテーマにふり返る
リーダーシップ養成研修会ステップⅡ

わたしたちイエス団の職員は「だれと出会い」「だれのために」「どのような社会をつくりだしていくのか」…今年も考える機会を与えられました。こうして皆さまと出会い、研修できたことに感謝しますと共に、研修を組み立てていく過程にこそ大きな学びがあることを感謝しないではいられません。

企画委員会研修チームから発信し、実現しました施設長研修会とリーダーシップ養成研修会ステップⅡも成果を得、今年修了の年を迎えました。研修チームとしては感無量の思いです。全てに感謝!!　ありがとうございました。

報告：企画委員会　研修担当チーム　チーフ
甲子園二葉幼稚園　園長　田村三佳子

施設長研修会

施設長、管理職の研修を法人で作っていくことを目的に、2012 年度理事会の諮問を受けて、水野理事を委員長に研修体系検討委員会が設置されました。そして 2012 年 10 月に「イエス団施設長に期待される能力や働き」が提示され、その内容に沿って 2013 年度に研修体系検討委員会作業チームで研修実施にむけて検討を重ね、2015 年度と 2016 年度、2 回に分けて施設長研修が行われました。

「なぜ東九条で研修をするのか」長年活動された宇野委員の話

この研修では「イエス団施設長に期待される能力や働き」として

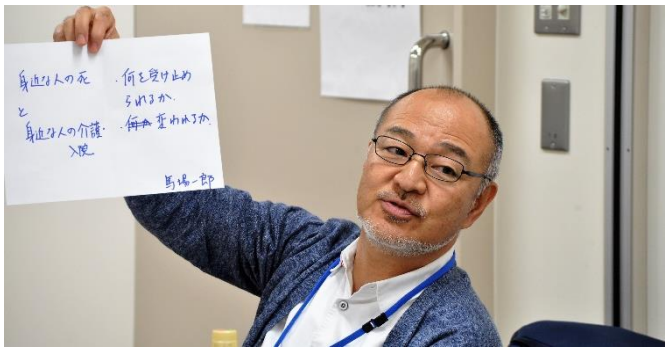
① 問題解決能力を高める
② 運動推進と理念の発信を考える
③ 社会や他者との関わり方についての視点を得る

という内容を大きなねらいとして行われました。

京都コリアン生活センター「エルファ」副理事長南珣賢さんのお話

特に、京都東九条研修では、「社会の課題が重なっている地域に向き合い、地域に根差した事業展開を行う施設を訪問しその働きを通して社会への働きかけや他者との関わり方についての視点を得る」ということを目的にフィールドワークが組まれ、体験と共にたくさんの気づきを与えられた研修になりました。

この気づきを各々の現場でどのように活かしていくか。私自身も“地域”を考える上での貴重なお話を聞くことができました。



研修委員長も今年は参加者として

施設長として忙しい毎日をぬって参加いただきました。

そして研修委員のみなさんにはたくさんの時間を使って協議いただきました。さらに講師、ファシリテーターを務めてくださったみなさんのご協力にも深く感謝して、ご報告とさせていただきます。

報告：研修委員会　委員長
賀川記念館 館長　友愛幼児園 園長　馬場 一郎

施設紹介

神視保育園

データ
〒653-0011　　兵庫県神戸市長田区三番町４丁目８
TEL：078-576-4249　FAX 078-576-4934
http://www.hoiku-kobe.or.jp/shinshi/index.html

わたし達の保育園

わたし達の保育園は、神戸の長田区三番町にあります。保育園は、1958 年に創立されました。2 歳から 5 歳までの地域の子ども達 110 名(2015 年までは 120 名)をお預かりしています。「小さくされた者に寄り添う」イエス団の理念に基づき創設されました。以来 58 年間、そのミッションの実現のために、多くの方の働きがありました。番町地域と呼ばれるこの地域の問題は根強く、私たちがどのように向き合っていくのかは、今までもまたこれからも、いつも課題です。現在は、外国籍の子ども達が急増し、地域と共にある私たちの新たなテーマともなっています。私たちの保育園に入所している子ども達の家庭の約２５%が生活保護世帯であり、私立保育園の中では最多と言われています。

また、保育園の大きな傾向として、障がいを持った子ども達が多く入所しています。今年度は、神戸市から補助認定されている子ども達が 12 名います。神戸市の私立保育園の中では、一番多いです。１０%以上の子どもが対象の子ども達となります。2 歳児クラスで、対象認定されることはめったにありませんので、3 歳児、4 歳児、5 歳児のクラスに 4～5 人ずつ在籍していることになります。重度の障がいを持った子ども達はほとんどいませんが、集団が苦手であったり、友達とのコミュニケーションが取りにくかったり、そこに言葉や生活習慣の違いがプラスされたりすることもあります。

このように、保護者が直面する困難な事に私たちも一緒になって考えながら、子ども達の育ちをお手伝いしています。相談内容が、家庭のことや生活のこととなる場合もあり、面談時間が 1 時間、2 時間となることもあります。けれど、そういった個別の対応がこの地域、私たちの保育園では大切な事で、それこそが神視保育園の設立された大きな役割だと感じています。

新しい神視保育園

2017 年、神視保育園は隣接する天隣乳児保育園と統合し、新たに『神視保育園』としてスタートします。それぞれの歴史を踏まえ、今私たちに示されるミッションに挑戦していきます。

★保育事業（7:00～19:00）
　0 歳児 20 名
　1 歳児 24 名
　2 歳児 26 名
　3 歳児 28 名
　4 歳児 28 名
　5 歳児 28 名（定員 154 名）
★一時保育事業
★乳幼児子育て応援事業
　（園庭開放・おもちゃライブラリィ等）
★地域・家庭支援相談室

新たな神視保育園の、長田区地域子育て応援事業の構想として以下の働きを展開していきます。

安心して過ごせる保育園

保育園は、天隣乳児保育園の一人ひとりに対応した細やかな乳児保育（先生方が数年にわたり試行錯誤しながら進めてきた保育環境の整備や担当制保育）を引き継ぎたいと思います。これからも、子ども達が主体的に遊びに取り組める環境をつくりながら、友達と安心して過ごすこと

地域に信頼される保育園

が出来る保育園を目指します。

また、いままで積極的に取り組んでこなかった、一時保育事業・園庭開放などにも目を向けていきます。特に、天隣乳児保育園ですでに行われている『おもちゃライブラリィ』『親子で遊ぼう』『サマープラザ』などは引き続き行い、子育ての支援活動を強化し、地域の中で信頼される保育園・施設を目指します。

新たな活動の展開として、地域・家庭支援相談室、地域のための応援スペースの働きを進めて行きたいと思います。特に、相談室には専属の

地域を応援する施設

職員を配置し、園内、園外に問わず様々な相談を受けていきます。そして、学習支援・生活相談・コミュニティづくりなどへと活動を発展させていきたいと構想中です。私たちは、地域を応援する施設となることを目指します。

現在、一体化に向けて施設整備を行っています。新たな神視保育園にご期待下さい。

＜神戸西部少年サポートセンターとの交流＞
センターの畑のお手伝いをしています。

10 月：
サツマイモ　たくさん収穫しました（5 歳児）

11 月：
イチゴの苗を植えました（4 歳児）

子ども達の製作です

天隣乳児保育園

データ
〒653-0011　　兵庫県神戸市長田区三番町４丁目８
TEL：078-576-7171　FAX：078-576-7188
http://www.hoiku-kobe.or.jp/tenrin/

イエス団は、1919 年に長田地区で診療活動を始めましたが、1921 年に地域活動の拠点として“天隣館”を立ち上げました。

そして、1946 年から神戸市立長田保育所の名で 16 年間委託運営を任された後、当時神戸市にはなかった乳児保育の要請を市から受け、1963 年に天隣乳児保育園が開所されました。1995 年には阪神淡路大震災により園舎が倒壊するも、多くの方々からの援助もあり、仮園舎を経て現在の園舎に　至っています。

さらに 2017 年４月､天隣乳児保育園と神視保育園が一体化されますが、新たなスタートを迎えるべく、着々と準備が進行中です。

天隣は乳児保育園であり、0，1 歳児の子ども達を対象に 50 年以上の保育の歴史があります。

0，1 歳児の子ども達は言葉でまだまだ伝えることのできない分、泣いたり笑ったりの表情やちょっとした仕草の中にたくさんのメッセージを込めて発信してきます。それをいかに汲み取り、子ども達に返していくか、毎日を丁寧に繰り返していく中で、「自分のことをわかってくれている。」「受け入れてくれている。」という気持ちを大切にし、保育を考え進めてきました。

天隣乳児保育園のセールスポイント

はじめて保育園にこどもを預ける保護者や若い保護者などの不安や心配に寄り添い、時に人生の先輩として、時に友達として、時に専門性を持って、その時々により柔軟に対応しています。

先生方一人ひとりの子どもや保護者に対する丁寧な関わり

保育の中では特別、大きな声は必要としません。大人が動いて子どもの側に行って声を掛けたり、「鼻水ふくね。」や「顔ふくよ。」など子ども達に声を掛けてからふくようにしたりなど、どんなに小さい赤ちゃんでも一人の人として関わっていくことを大切にしています。

何年もかかって集めてきた棚や玩具

5、6 年前から自分たちの保育をもう一度見直そうと取り組みを続け、子ども達にとって良い保育、良い環境とは…と、担当制保育やコーナー遊びをとり入れ、子どもたち一人ひとりに向かい合い、保育を行っていこうと進めてきました。

本当に子ども達に与えたい、安心安全で、遊びたい！やってみたい！と思えるおもしろい玩具は何か？と、年々棚や玩具を買い揃えてきました。手先の遊びの玩具や、机上の玩具、身体を大きく動かせる粗大遊びのマットや鉄棒、トランポリンなどなど。子ども達の成長発達に合わせて選んで、楽しめるように日々考えています。

明るい保育室

光がよく入るようにと設計の段階から考えられて造られている保育室。とにかく明るいんです。明るすぎて、西陽が暑い！という時もありますが、冬でも日が差してぽかぽかで、0 歳さんがほっこりしている姿があります。

今は工事中で､工事のおじさんたちが行き来していますが､興味津々でその様子をじっと見ているんです。手を振ったり互いにニコニコとほほえみ合う姿がかわいいんですよ。

いっしょにあそぼう

運動会ではなく、親子で関わり楽しめるようにと願いを込めて“いっしょにあそぼう”のネーミングになっています。

今年の 1 歳児クラスはオリンピックを題材に親子で取り組み、中には子ども達が普段遊んでいる活動を通して､『おーっ！』と子ども達の成長を感じ、喜び合えるものも取り入れています。

0，1 歳だけなので、行事をどういう風に持つかというのは難しく､『一人ひとりが自然な形で自分を発揮できる場づくり』をと､常に工夫し準備して進めています。

まもなく神視保育園と一体化となりますが､0､1 歳に特化した保育園として大切にしてきたものを､これからも持ち続けていきたいと思います。

人物探訪　元理事　黒田 絢さん

黒田 絢
くろだあや
1928 年 10 月 1 日生まれ
前 光の子保育園園長

イエス団報では、賀川豊彦先生のキリスト精神を継承された先達の方々を紹介してまいりましたが、賀川先生の生前の姿をご存知の方が圧倒的に少なくなってまいりました。
賀川先生と直接触れ合った方からお話を伺うことで、賀川先生をより身近に感じられればと願い今回は、15 年前まで光の子保育園の園長として、また園長を退かれた後も法人の理事としてイエス団にかかわり続けてくださった黒田絢さんにお話を伺いました。

赴任のきっかけ

黒田絢さんは東京の赤坂生まれ、幼少の頃はお母様に連れられ赤坂の教会に行ったこともあったそうですが、本格的なキリスト教との出会いは、高輪に引っ越し高輪教会に行くようになったことがきっかけとなり、終戦後、高輪教会で洗礼を受けられました。

黒田保郎牧師が、復員後、松沢教会に住所を置きながら伝道師として高輪教会に来られ CS の教師をされていた時、青年会で出合いやがて結婚。最初の赴任先が青砥伝道所(現青砥教会)でした。

ある日、賀川先生から呼び出され「自分の故郷、徳島の石井という所に伝道のために教会と保育園を建てたのだけれども、牧師がいない。それで牧師と保母のできる嫁さんを探しているのだが、あなたたちがそれにぴったりなので徳島に行ってくれないか」と提案があったそうです。当時は賀川先生のサポートを受け、その指示通り動いていたようなところがあったので、躊躇することもなく、徳島へ赴任する決意をされたそうです。絢さん自身、「徳島ってどこ?と地図を広げてみないと分からない場所だった」と笑って話されましたが、大胆な決断だったことが想像されます。

賀川先生の伝道方法

賀川先生の伝道方法は教会を建てると、礼拝ができる様に広い部屋がある。すると平日は空いているので、そこで保育をするというのが田舎の伝道のやり方だったそうです。広いホールがあって、日曜日になるとそこに椅子を並べて礼拝して、平日は保育園として利用する。引っ越された 1955 年当時、石井の駅を降りるとあたりは田圃ばかりで、その先に大きな屋根の建物があった。「へぇー。すごい」と言うのが第一印象。

賀川先生は、「60 名くらい子どもが来るから、保郎君行ってくれよ」と言われ、1 月に赴任して 4 月から保育を始めるとなったら、最初の申し込みは 17 名だったのでびっくりし、「賀川先生は嘘つきだなと思いました」と当時を振り返られる絢さんでした。

イエス団とのつながり

当時園長が保郎牧師で絢さんは主任。そして教会に来ていた女性が保母、教会員の妹が保母助手と言う体制で無認可保育園として開園。

年度末には園児が 23 名に増員したものの、経営的には苦労したことが容易に想像できます。賀川先生は月に 1 万円の補助をしてくださったとのこと。(当時の教員の初任給が 3000 円くらい)少しずつ園児の数も増えてきて、賀川先生にも申し訳ないので、3 年ほどで補助は辞退されたそうです。

「イエス団と言うのは、そのころから心の支えと言うか、ただ独立した教会や保育園と言うのではなくイエス団に属している、出先機関と言ったらいけないけれど、賀川精神と言うものを教会でも保育園でも、日常生活の中でも一生懸命伝えなければいけない立場だという事は常に意識していました。」

保育園は高度経済成長期の 1965 年、認可を受けました。経営的には安定し、ホッとしたもののキリスト教を保育の中心に位置付けた保育にこだわり続けたそうです。

黒田保郎牧師はイエス団の理事会の会議のたびに船で通われ、「神戸に行くとホッとするようなイエス団の雰囲気がある」と絢さんに話されていたそうです。「イエス団はこんなところにあるんだよ」と賀川記念館に連れて行ってもらった時には、「自分の母屋がイエス団にあるとあらためて思いましたし、心の支え、安心感を覚えましたよ」とお話しされました。交通手段が整った今とは違い、船に乗って片道 5 時間以上もかかっていた時代ならではの法人と施設の関係だったんだろうと感じました。

社会福祉法人イエス団の理事に就任

黒田保郎牧師が亡くなったあと 1987 年に園長と同時に理事に就任。「当時は定款にキリストの文字が入ってはいけない。と厚生省に言われ、ずいぶん理事会で問題になりました。村山盛嗣先生や小川居先生、木村量好先生等牧師の先生方が何度も厚生省と交渉を重ねてくださったおかげで、定款からキリストの文字を消さずに済みました。私たちからキリスト精神をのぞいたら、何が残るのかと言う切迫感がありましたよ。絶対に譲れないってね」

「色々な組織ではリーダーがしっかりしていないといけない。皆はその人が立派な人だと思ってついていくけれど、ほんとにどうなっているかは神さまにしかわからない。その点、賀川先生についていたおかげで、いと小さい者を大事にしなければいけないという聖書の御言葉を私たちの中に染み込ませるような保育そのもの、教育そのものができる。そんな心の拠りどころができているからよかった。」と話されました。

賀川先生との思い出

賀川先生は、伝道旅行に行ったら、教会または教会員の家で泊まる。ホテルなんかに泊まるのは嫌いだったそうです。食事もそこの家で作ってくれた食事が好きだったようで黒田四郎先生(注 1)のご夫人は料理が上手で、絢先生もそれを受け継いで、「お芋や蕪の炊いたのをお出

しすると『絢さんの料理が好きじゃ。美味しいよ。』と言って喜んでくれました」「一緒に生活していたわけでは無かったが、家に来たら本当のおじいちゃんが来たみたいでした。先生じゃなくて優しいおじいちゃんが来てくれたという感じで、楽しくおしゃべりしました。賀川先生としゃべったことがある人は少なくなりましたね。」

教会とつながること、心の拠りどころ

イエス団報 8 号(2005/11/20 発行)の巻頭言で書かれていた「心の拠りどころを整える」という点についてお聞きしました。

「私たちの頃は保育者もクリスチャンになる人が何人かいましたけれど、今はなかなか難しいですね」「こんなに保育士も忙しくなり、日曜日くらい（礼拝に行かず）休ませてあげなきゃと言うからね」と残念そうに話されました。

「子ども達の親でも、『何のために生きているのかな』というようなことを余り考えていないというか、問題はないと思っている人が多いように思いますね。本当にそれで生きていけるのかなと心配になることもありますよ。実際に教会に来てくれる保護者がほとんどなくなりましたね。」伝道と保育の業が一体化していた時代と現在の実態に大きな隔たりを強く語られました。

「教会やキリスト教の事をどう伝えてゆくのか。やっぱり施設と教会が繋がっていることって大事ですからね」「実際に信仰告白、教会生活に結びつかなくても、キリスト教の事を何も知らない保護者が保育園に来て、わずかな時間でもキリスト教について理解してくれる人が居て、頼って来てくださる方がいる。」そうした心の拠りどころがイエス団の施設であって欲しい。

賀川先生やそれに連なる先輩方が、それぞれの地に立てた設立当初の思いがどこにあって、何を引き継ぐべきなのかを問われているような思いがしてお聞きしました。

私たちへのエールをお願いしました

「職員はお互いに仲良しでなくてはいかん。足を引っ張り合うのではなく、園の行事を通して、私はこの園で働いて良かったというような気持ちを持つような。」

「わたしは一番最初に来た保母さんとまだ付きあっとんよ。50 年も 60 年も前の保母さんとね。だから、仕事が楽しい！というような付き合い方。大事にしなきゃいかんね。」

「今でも 30 年も前の職員が、主人（保郎先生）が亡くなった時、ちょうど花の日だったが、うちの主人を知っている人がまだ四人いて、その人たちが揃って花の日には花を持って来てくれる。普段口では言わないが、心でいつも大切にしあっていたというのが大事ですね」

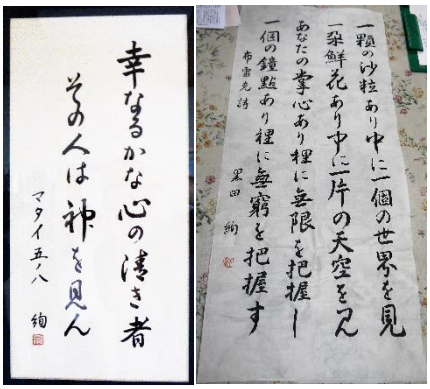
退職後の過ごし方

「やりたいことがあったので退職した今できる様になって嬉しい。忙しくて何もできなかったから。」と話してくださった絢さん。お習字とフェルトマスコットの作品を見せてくださいました。

お母様がマメな方で、お姉様も人形をよく作っていらしたようです。「暇ができたら一体に 2～3 日かけて作っているの。」着せ替え人形のマスコットはバザーに毎年出品されているが、動物は今年初めてつくられた。動物につける目玉が徳島では入手困難で、福島の娘さんから送ってもらっているとのことでした。

次のバザー用にコツコツと作りためているフエルトのマスコットをわたし達にも「好きなの選んで」とプレゼントしてくださいました。

着せ替えのできるお人形はバザーで人気の品なんだそうです。とても細かく模様付けされたお洋服を見れば人気のほども納得です。



こちらは書道東京で習字の先生と結婚されたお姉様の息子さんに習っており。書いて納得いくものは郵送して指導してもらっているそうです。

光の子保育園の卒園式で配る聖書には、絢さんが毛筆で一人ひとりの名前と聖句「光の子として歩きなさい」を書しておられるそうです。

10 の質問をインタビューさせていただきました

1 好きな言葉／一生懸命　（なんでも一生懸命やらないかん）
2 嫌いな言葉／嫌いな言葉ではなくて、カタカナ言葉
3 好きな音／ハープの音色　きれいな音色の木琴の音
4 嫌いな音／サイレン
5 好きな手触り／赤ちゃんの肌
6 嫌いな手触り／ざらざらのサメ肌
7 保育士にならなかったら／小学校の先生
教会学校に行ってる時に、ＣＳの先生に「わたし教会学校の先生になる」って言ったらね、教会学校の先生じゃお給料無いよって言われてね。「じゃあ小学校の先生でいいわ」って言ったのね。何しろ子どもの先生になりたかったんよね。
8 なりたくない職業／警官　（辛いだろうなと思ってね）
9 好きな色：／田植えの後のさらさらと揺れるもえぎ色
10 天国で神様に何と言われたい／絢さんだね。ご苦労さん、よく来たね。

（注 1）

神学生時代から賀川先生の新川での働きに協働し、1928 年からは神の国運動として文字通り二人三脚で、5 年間に渡り日本各地を何回も巡回して伝道したり、賀川先生の著述の手伝いや、教会や福祉施設の働きまでもされ、先生が召天されるまで本当の弟のように可愛がられていた黒田四郎という牧師先生がいました。「人間賀川豊彦」「私の賀川豊彦研究」（いずれも日本基督出版局）など、賀川先生の働きを伝え続けた先生です。四郎牧師のご長男が黒田保郎牧師。黒田絢さんはそのご夫人という関係です。

トピックス

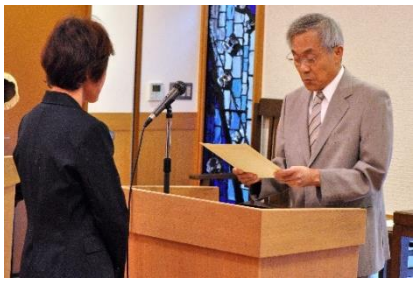
リーダーシップ養成研修ステップⅡ修了！

私の手元に“社会福祉法人・学校法人イエス団リーダーシップ養成研修ステップⅡ「決意と提言」”と題した冊子があります。これはつい先日、2016 年 10 月 28 日に行われたリーダーシップ養成研修ステップⅡ修了式の資料です。この冊子の中には、16 名の研修受講者が研修を終えて書かれた「決意と提言」が載せられています。

10 月 28 日の修了式は、黒田道郎理事長の開会礼拝から始まり、修了証書の授与を行い、その後、一人 7 分（みなさん 10 分位でしたが）ずつこの資料に基づいて「決意と提言」を感想と共に話してもらい、最後に平田義常務理事に閉会の言葉をいただき、修了しました。

みなさんが書かれたこの資料を読み、一人ずつの話を聞いて、「あぁ、いろいろあったけど、この研修をやってよかったぁ！」という実感が沸いてきました。

施設長、管理職の研修を考えるにあたって、理事会において研修体系検討委員会が設置され、“施設長研修・管理職研修のガイドライン”が答申されました。さらにその答申に基づき、研修体系検討委員会作業チーム（現研修委員会）が、このリーダーシップ養成研修ステップⅡを計画しました。2014 年 5 月にみなさんに呼びかけ、施設長からの推薦を受けた 16 名が、この研修を受講し、一人の脱落者もなく、修了式の日を迎えました。



以下、その内容を記します。

① 2014 年 10 月 24・25 日［於：六甲山 YMCA］、内容は（キリスト教、イエス団の歴史・沿革、賀川豊彦、MS2009 の理解）、（課題発見→問題分析→アクションプランの作成）。

② 2015 年 2 月 7 日［賀川記念館］、（会議の持ち方・進め方）、（コミュニケーションについて）。

③ 4 月 11 日［賀川記念館］、（会計基準、経理規程の理解）、（予算管理、予算執行、設備整備計画）。

④ 7 月 18 日［賀川記念館］、（アクションプランに基づく報告→評価→アクションプランの作成）。

⑤ 10 月 3 日［賀川記念館］、（④の続きアクションプランに基づく報告→評価→アクションプランの作成）。

⑥ 12 月 26 日［賀川記念館］、（定款、諸規則の理解）、（就業規則や給与規程の理解、適切な労務管理）、（採用計画、募集・広報）。

⑦ 2016 年 4 月 9 日［コミスタこうべ］、（中期計画、年度の事業計画）、（経営資源の活用、方針に基づく人事計画）。

⑧ 7 月 16 日［賀川記念館］、（リスクマネージメントに対する理解と対応）、（施設内研修計画）。

⑨ 9 月 9・10 日［京都東九条］、（東九条フィールドワーク）、（ステップⅡ研修の総括）。

2014 年 10 月から 2016 年 9 月まで、3 年にわたり、9 コマを消化したことになります。法人や施設の運営上に必要な知識、情報を学び、自らの気づきと考える力を身につけ、行動していくために、その目標を目指して研修内容をつくり上げてきました。初めての試みであり、評価・反省すべき点は多々ありますが、現状でベストな内容を提供できたと思っています。そのために研修委員会も、ほぼ 20 回にわたり会議を持ち、協議してきました。

修了証書を持つ受講生と受講生からの感謝の寄せ書きを持つ理事長、講師、研修委員

最初の参加者への案内に「法人と施設の次代をつくっていくために、その責任を持って仕事をしていくリーダーの育成、という視点を持って実行します。組織は“人”です。そしてそのことは今後の法人、施設の最大の課題でもあります。参加されるみなさんが自分自身の生き方を問い、見出すことを願い、みなさんと共にこの研修を実りあるものにしていきたいと思います。」と書かれています。参加者と委員とがチームとなり、この研修を作り上げてきた感があります。修了者のみなさんが、意識を持って法人のリーダーとして、明日を創っていってくれることを願います。

参加者を出していただいた施設のみなさん、研修講師を引き受けてくださった方々、法人事務局、研修委員のみなさん、そして毎回緊張しながら、一生懸命参加してくださった修了生のみなさんに感謝と敬意を表し、ご報告とさせていただきます。

研修委員会　委員長
賀川記念館 館長　友愛幼児園 園長　馬場 一郎

「なつやすみ平和映画上映会」

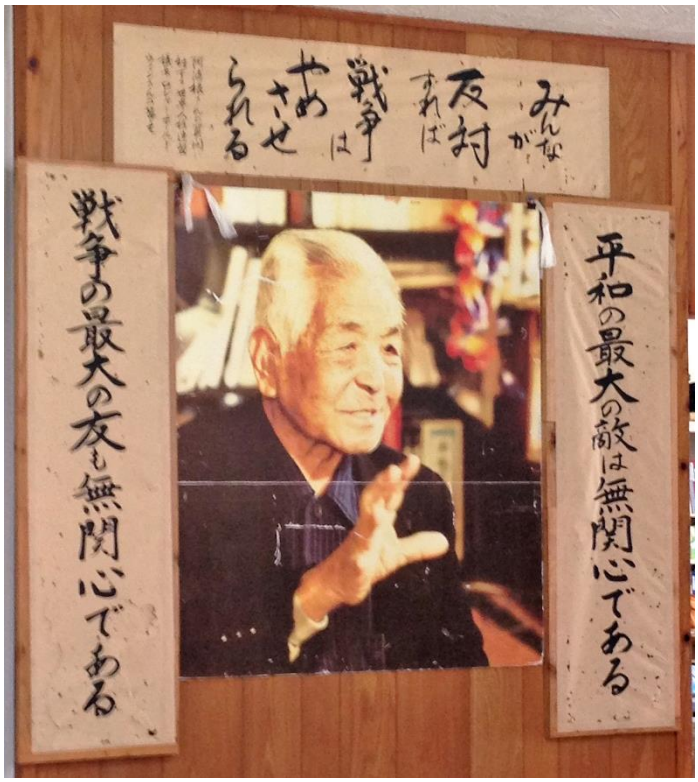
当施設、愛隣館研修センターでは、この 8 月に新たな取り組みとして「なつやすみ平和映画上映会」と題して映画上映企画を行いました。

京都ブロックでは 2005 年より沖縄平和研修を行ってきており（昨年よりイエス団全体のプログラムになっています）、平和をつくりだすための学びを深めているところです。

米軍基地問題を初めとする沖縄の状況は戦後 70 年を経た今もなお何ら変わることなく、米軍属による殺人事件、普天間基地辺野古移設を巡る裁判、東村高江ヘリパッド建設における貴重な自然の破壊、民意が踏みにじられる行為が現在もリアルタイムで行われていることについてご存じの方もおられるかと思います。

研修を通して学んできた私たちは、平和をつくりだすために普段生活している場において出来ることをそれぞれに考えながら日々の働きの中に身を置いているところです。

世界平和を願う平和の礎
沖縄戦などで亡くなられたすべての人々 の氏名を刻んだ記念碑



阿波根昌鴻（あはごん　しょうこう）さん
今は亡き沖縄反基地運動家のメッセージ

その一つとして、本土のメディアでは触れられることの少ない沖縄の歴史と現状、基地問題について、地域の方々やこどもたちにも広く知ってもらい、考えてもらえる様な機会として今回の映画上映会を企画しました。

2004 年に起きた沖縄国際大学米軍ヘリ墜落事故は記憶に新しい方もおられるかと思います。57 年前、沖縄の石川市（現・うるま市）の小学校に米軍ジェット機が墜落、児童 11 名を含む 18 名の尊い命が奪われた最悪の事故が起こりました。その宮森小学校米軍機墜落事故をモチーフに、現在に続く基地問題と平和について考える作品、『ひまわり ～沖縄は忘れない あの日の空を～』を上映しました。

地域に咲いた一群のひまわり（京都・向島ニュータウン）

配給会社の方のご協力の元、チケットやチラシ作成、広報活動を行いました。前売りチケットの売れ行きが中々伸びず、どのくらいの方が観に来てくださるのかも全く未知数で上映会前夜まで不安も残りました。結果は予想を上回り、当日 3 回の上映を行って計 155 名の方にお越し頂きました。

また今回の上映会に併せて、一麦保育園の平良嘉男園長をお招きしてご講演いただきました。

平良園長は今回の映画に取り上げられている宮森小学校米軍機墜落事故の体験者の一人でもあられます。貴重なお話の中から「平和をつくりだす」ために共に考える機会を持つことが出来たと思います。

一麦保育園　平良嘉男園長

頂いたアンケートの中には、「私たち本土の人間も加害者の一人」であるとのご意見もありました。沖縄の問題に限らない事かもしれませんが、政策的にせよ何にせよ、私たちが当事者としてではなく、第三者としての意識を持ち続けているが故にある現在の状況ではないでしょうか。

こうした気付きが少しでも増えてゆけば、またそのきっかけとなることが出来たのであれば今回の企画の目的も少しは達せられたかもしれません。

愛隣館では研修センター設立当初より講演会や学習会、上映会を通して地域の方々と共に学び考える機会を持ってきました。また毎年 2 月 11 日には「平和について考える日」として企画を行っています。

今後、夏の上映会企画を定例化させて、平和、人権、福祉に関する映画上映を通して、地域と共に平和をつくりだす活動に結びつけてゆくことが出来ればと思っています。

愛隣館研修センター　安野 友喜

J. B. フェローズ活動報告

大阪ブロック

2016 年度の活動は以下の 4 点を中心に進めました。

① 施設訪問を行うことで理解を深め、お互いの学びとする

② 職員通信を発行してつながりを深める

③ タオル販売を継続して震災復興支援を行う
（今年度は受注発注の形）
＊東北のタオル業者がタオルの販売を行わなくなり急遽大阪のタオル業者で対応した。来年度どうするのかは要検討。

④ 今年度、給食室の交流を初めて行う
＊昨年度に引き続き JB 担当でない職員も参加できるものは参加することで交流を深め、JB の取り組みを周知するようにしました。

① 施設訪問

- 「7 月 8 日（金） ガーデンエル・ロイ施設見学」
エル（乳児院）・ロイ（児童養護施設）・ハンナ（里親ホーム）の見学や、そこで生活する子ども達との触れ合いの時間を持ち、理解を深めました。また、職員の方と意見交換を行い各施設の話を聞く事でそれぞれの学びや刺激、悩みなどの共有ができました。
- 「豊島合同夏祭り・長島愛生園研修」
四国、京都、兵庫ブロックと共に協力し参加させて頂きました。長島愛生園は時期的になかなか参加が難しい所がありました。
- 「10 月 25 日（火） 愛之園保育園公開保育、施設見学」
わらべうたの講師の方が来て下さり、0 歳～5 歳児クラスのわらべうた遊びの見学、簡単なわらべうたのおもちゃ作りを行いました。 一人一人にとって学びの場となり、職員との意見交換を行うことで交流にもつながりました。

② 大阪職員通信

- 第 10 号発行（10 月中旬発行）
内容：・ガーデンエル・ロイ施設見学報告
・各施設取り組み紹介
・キリスト教Q＆A
- 第 11 号発行予定（2 月中旬発行予定）
内容：・愛之園保育園公開保育見学報告
・ハンセン病研修報告
・豊島研修報告
・各施設取り組み紹介
・キリスト教Q＆A

③ 震災復興支援タオルについて

- 今年度は同じデザインで受注発注の形で行うことになり注文を受けていったが、業者が生産を取り止めてしまった為、急遽大阪のタオル業者に依頼し、収益を支援につなげました。来年度の方向性は年度最後の大阪ブロック会議で協議します。

④給食室の交流

- 11 月 10 日（木） 聖浄保育園にて行う。
・5 歳児とクッキング参加。
・職員同士での意見交換を行う。

◎大阪ブロック会議

1 回目：5/19 2 回目：7/8 3 回目：10/25 4 回目：2/9 予定

報告：大阪ブロックリーダー
天使保育園 江田真弓

兵庫ブロック

今年度は、これまでのつながりを深めると共に、さらに新しい事を考えていこうと活動しています。

① 交流会の開催

毎年秋に行われている兵庫ブロック交流会は今年で 5 回目となりました。今年度は 9 月 17 日(土)賀川記念館に 120 名の職員が集いました。

第 1 部は研修です。「みんなが参加して楽しめる研修」という意見から、今年度は馬場直弥（ばばなおみ）先生をお迎えし、わらべうたを楽しみました。2 人で向かい合わせになってふれあいを楽しむものや、たくさんの人数でできるものまで様々な年齢の子どもたちと楽しめるものを教えていただきました。短い時間でしたが、わらべうたを通しての子どもたちとの関わり方や導入の仕方なども詳しく教えていただきました。体を実際に動かしてやってみることで、子どもたちの気持ちになって楽しむこともできました。

第 2 部は親睦会です。お弁当をいただきながらグループの話もはずんでいました。しりとり、難しい漢字＋シルエットクイズ、じゃんけん大会などグループ対抗ゲームをして盛り上がりました。今年も新しい出会いやつながりを感じられるような交流会となりました。

② 施設訪問研修

今年は友愛幼児園で 9 月 7 日(水)に行いました。6 の参加がありました。1 月 18 日(水)には、のぞみ保育園で、幼児クラスの体育指導の様子を見学する研修も予定しています。

③ 東日本大震災復興支援パーカー・Ｔシャツ

今年も各園にパーカー・Ｔシャツを販売しました。各園の協力も嬉しく思います。Ｔシャツの新色などの新しい試みも考えていこうと話し合っています。

④ ハンセン病研修

今年も長島愛生園で研修をさせていただきました。「知識がないと差別になるので勉強を続けていきたい」という意見や「ニュースで見ていた内容と違った部分があったので、他の人にも伝えていきたい」との振り返りがありました。今後も研修を続けて、語り部の方の話を実際に聞く機会を設けて、知識を深めていけるように学んでいきたいと思います。

⑤ 各園の夏祭りやバザーの参加

他園のゲームなどの手伝いをしたり、職員や保護者と関わることで、たくさんの出会いがあり楽しく過ごすことができました。

報告：兵庫ブロックリーダー
のぞみ保育園　平井　真未

京都ブロック

2016 年度の活動は、主に 4 つの活動を行ってきました。

① 「発達障がいに関する意見交換会」
② 「給食に関する意見交換会」
③ 「ＪＢＦ京都交流会（ＪＢＦ京都大作戦 2016)」
④ 「豊島研修」「長島愛生園研修」

① 「発達障がいに関する意見交換会」

今年度は年 3 回集まり 3 施設の事例報告を行う事にしました。具体的な事例を持ち寄り、意見交換をすることで利用者、保護者とのより良い日々の関わりとは何かと考える良い機会になっていると思います。

② 「給食に関する意見交換会」

年 3 回各施設の調理職員が集まり献立作り・レシピ・提供する器・スチコンの使い方等の調理職員ならではの情報交換や意見交換の貴重な交流の場になっていると思います。

③ 「ＪＢＦ京都交流会（ＪＢＦ京都大作戦 2016)」

今年も１月に桃陵保育園ホールをお借りして行う予定です。ここ数年「交流」をテーマに行ってきました。今年はその中で J.B. フェローズがどんな活動をしているのか？どういう意義があるのか？をしっかり伝えていきたいと思っています。そして、普段交流の少ない他施設の職員と横の繋がりを作りながら、共有し合える時間にしていきたいと思います。

④ 「豊島研修」「長島愛生園研修」

豊島研修は今回、初めて来春完成予定の豊島神愛館を拠点に研修を行いました。

「みんなに伝えたい豊島」をテーマに豊島の過去と現在・賀川豊彦の活動・産廃問題・神愛館の今後・島の行事参加交流等、研修を通して感じて頂き、「みんなに伝えたい豊島」の『みんな』のところを各施設の『子ども』『利用者』に代えて思いを伝えて頂きたい！！という思いで企画しました。

そして、このたくさんの貴重な学びを１度きりの研修で終わるのではなく島の方々との交流をしながら継続していきたいと考えています。

継続の思いを込めて、豊島でも栽培されているレモンの木の植樹も行いました。今回、植樹したレモンの木は、みんなで成長を見守って頂けたら幸いです。随時レモンの成長、草苅、収穫の様子や豊島との交流も報告していきたいと思います。

「長島愛生園研修」では、資料館の見学、当事者の方の体験談、懇親会を通じて「ハンセン病問題」「自分の中にある差別」等、理解出来る貴重な機会となりました。翌日は、長島愛生園内の清掃をお手伝いさせて頂きました。これからも継続して研修等を行っていき各施設に持ち帰られる様に考えています。

2016 年度は、この 4 つの主な活動を継続的に繋がりながら行って来ました。そしてその中から新たな発想や展開が生まれてきた様に感じた年となったと共に、この発想や展開を J.B. フェローズ全体で共有して行けるよう『伝える』という大きな目標が出来た年でもありました。

これからは、J.B. フェローズは一人ひとりの大切な『聲』に耳を傾け、輝きみんなと繋がりが持てる様に実践していきます。

報告：京都ブロックリーダー
宇山光の子保育園　荒木　健

四国ブロック

2016 年度の四国 J.B. フェローズは

① 各施設の子どもたちの作品の送り合い
② 豊島の 2 施設合同夏まつりの企画依頼・参加
③ 長島愛生園「ハンセン病」研修の参加
④ 各施設の行事への参加
⑤ 豊島研修への参加

の活動をＪＢの担当でない職員も参加することで交流を深めようと活動してきました。

① 各施設の子どもたちの作品の送り合い

今年も昨年度に引き続いて、子どもたちの作品を豊島夏まつり・敬老の日・クリスマスと送り合い、交流することにしました。

各施設の子どもたちや、豊島の方々も喜んで下さっているので、今後も行っていきたいと思っています。

② 長島愛生園「ハンセン病」研修の参加

参加した職員１人ひとりが、いろいろな思いを感じて帰ってきました。これからも多くの職員がこの研修に参加し、「ハンセン病」について知ろうとする気持ちを持ち、考える時間を作っていきたいです。

③ 豊島の２施設合同夏まつりの企画依頼・参加

今年は利用者の方々の体力を考慮し、時間短縮を行ったり、他のブロックのフェローズの人数も制限させて頂いたりと変更点が多々ありましたが、みなさまのご協力により、無事に開催することができ、大変嬉しく思っています。来年に向けての課題もたくさんありますが、来場者や J.B. フェローズの方々、「みんなが楽しく参加できる夏まつり」を目指して取り組んでいきたいです。

④ 各施設の行事への参加

光の子保育園の施設・保育見学を行い、園児たちとケアハウスに出かけて、手作り楽器あそびや大型絵本の読み聞かせ等の交流をしました。他施設の J.B. フェローズメンバーも子どもたちや利用者の方々との関わり合いを間近に見たり、触れ合うことで充実した時間を過ごすことができました。

日程の都合もありますが、これからもお互いの施設を知るよい機会となるように、計画していきたいと思います。

⑤ 豊島研修への参加

今回たくさんの方が豊島に来島され、イエス団と島のつながりを改めて感じました。レモンの木の植樹を機に、いろいろな方に島に来て頂いて豊島のことを知る機会となれば嬉しいです。施設同士の距離は離れていますが、今後も四国のつながりを大切にして、私たちに何ができるのかを考え、活動していきたいと思います。

報告：四国ブロックリーダー
光の子保育園　藤本　陽子

表紙写真の解説

写真上から①～⑩の順

①	みんなで植えたお芋を収穫！「うんとこしょ！どっこいしょ！みんなで、植えたサツマイモなかなかぬけないな～。」 天使ベビーセンター
②	招待行事　万代ドリームワールドに参加 ガーデンロイ
③	被災地へ思いが届くように街頭募金頑張りました。 天使保育園
④	里親支援専門相談員を中心に、里親養子縁組に力を入れています。昨年度は4組。　今年度はすでに2組が成立しました。 ガーデンエル
⑤	ぼくたちみんな仲良し！ 天隣乳児保育園
⑥	たのしいね～ 甲子園二葉幼稚園
⑦	ちいさな保育士「暑いからかぶっておこうね!?」 天隣乳児保育園
⑧	平和を築くには　　阿波根昌鴻(あはごん　しょうこう)さん 今は亡き沖縄反基地運動家のメッセージ 沖縄平和研修参加職員の感想① ＊反基地運動をされている方の話から、平和の反対は無関心であることを実感した。 一麦保育園
⑨	世界平和を願う「平和の礎」　沖縄戦などで亡くなられたすべての人々の氏名を刻んだ記念碑 沖縄平和研修参加職員の感想② ＊リゾート沖縄の印象が、沖縄戦などの歴史や基地を目の当たりにして、厳しい状況の中にある沖縄や平和について考える事ができた。 一麦保育園
⑩	運動会　With運動会　(ミッションステートメント 2009 本文) 杉の子保育園

編集後記

羊の番をしていた羊飼いたちに、主の御使いは、「今日、ダビデの町で、あなたがたのために救い主がお生まれになった。」（ルカ．2.11.）と告げました。羊飼いは社会の最底辺の者たちで不潔な者と人々から蔑まれていました。しかし神はその羊飼いに御使いをお遣わしになられたのです。羊飼いたちは、どんなにうれしかったことでしょう。

イエス団創設者の賀川豊彦は、病に蝕まれ余命いくばくもない体をかかえて、残された生涯を貧困に喘ぐ人々の救済にささげるため 1909 年 12 月 24 日、日本最大のスラム街、神戸の新川地区に５畳一間を借りて住み込み、伝道・隣保活動を開始しました。そして伝道、医療、保育をはじめ労働運動、農民運動、生活協同組合運動など社会事業家としても活動しました。

私たちイエス団は、その誕生からこれからも、イエスに倣って生きた賀川豊彦のキリスト精神を継承していきます。

今年も多くの方々に支えられ祈られて歴史を刻んできたこの創立記念日（１２月２４日）にイエス団報第１９号を発行することができる恵みに感謝するとともに、イエス団に連なる皆さんのご理解とご協力に感謝を申し上げます。

イエス団報編集委員会